

伊豆の地域課題探る

南伊豆 静大など研究フォーラム

静岡大イノベーション推進機構と南伊豆町などは10日、地域の課題解決を探る研究フォーラムを町役場で開いた。同町を含む賀茂地域で急速な人口減少に直面する中、大学の研究者と学生が支援プロジェクトや地域資源の活用について報告した。

テーマは「伊豆半島の学習、交流、協働拠点づくりを考える」。伊豆と同じように過疎化が進む石川県の能登



パネル討論などを行った研究フォーラム。地域課題の解決を考えた＝南伊豆町役場

半島で、人材養成プロジェクトに取り組み、授を招いた。伊豆半島最南端に位置する南伊豆町は病院跡地に、移住や生涯学習を促す拠点施設の整備を計画する。パネル討論で宇野特任教授は、プロジェクトの拠点施設が能登半島先端の石川県珠洲市にあることを紹介。「金沢から車で2時間半かかるが、里山里海自然学校にふさわしい場所だった。コンセプトが定まれば、半島の先端部でも拠点づくりの適地になる」と指摘した。

静岡大の教授と学生は伊豆半島の地域資源や、松崎町で取り組むフィールドワークについて発表した。(下田支局・杉山諭)